

オーダー: 999999-9999

 クライアント #: 999999
 医師: Sample Doctor, MD
 Doctors Data Inc
 123 Main St.
 St. Charles, IL 60174 USA

患者: Sample Patient
 Id: 999999
 年齢: 53 生年月日: 1972/01/01
 性別: Female

検体作成 日付/時間
 採取日 2025/05/19
 受領日 2025/05/23
 報告日 2025/05/30

片利共生 細菌	結果	NG	1+	2+	3+	4+	基準値
<i>Bacillus pumilus</i>	1+	■	▲	■	■	■	増殖なし
<i>Streptococcus anginosus</i>	4+	■	■	■	■	▲	増殖なし
Dysbiotic Bacteria	結果	NG	1+	2+	3+	4+	基準値
<i>Enterobacter cloacae</i> 複合体	3+	■	■	■	▲	■	増殖なし
期待/有益な細菌叢	結果	NG	1+	2+	3+	4+	基準値
クロストリジウム属	4+	■	■	■	■	▲	2+増殖なし - 4+増殖
腸球菌属	NG	▲	■	■	■	■	2+増殖なし - 4+増殖
大腸菌	3+	■	■	■	▲	■	2+増殖なし - 4+増殖
ビフィドバクテリウム属	3+	■	■	■	▲	■	2+増殖なし - 4+増殖
ラクトバシルス属	1+	■	▲	■	■	■	2+増殖なし - 4+増殖
<i>Bacteroides fragilis</i> 群	4+	■	■	■	■	▲	2+増殖なし - 4+増殖
酵母	結果	NG	1+	2+	3+	4+	基準値
<i>Rhodotorula mucilaginosa</i>	1+	■	▲	■	■	■	0+増殖なし - 1+増殖

微生物学情報:

- Pathogenic bacteria *Aeromonas*, *Campylobacter*, *Plesiomonas*, *Salmonella*, *Shigella*, *Vibrio*, *Yersinia*, & *Edwardsiella tarda* have been specifically tested for and found absent unless reported.
- 不均衡菌は通常、宿主の消化管に対して病原性も有益性もないです。不均衡は、有益な細菌のレベルが不十分で共生細菌のレベルが増加している場合に起こります。ある種の共生細菌は、より高いレベルで異生物として報告されます。
- dysbiotic bacteriaは、消化管に疾患を引き起こす可能性のある細菌からなります。それらは、有益な細菌に毒性のある化学物質への曝露;抗生物質、経口避妊薬または他の薬物の使用;繊維摂取不良および高いストレスレベルを含む多くの因子により存在し得ます。
- Expected / Beneficial bacteria make up a significant portion of the total microflora in a healthy & balanced GI tract. These beneficial bacteria have many health-protecting effects in the GI tract including manufacturing vitamins, fermenting fibers, digesting proteins and carbohydrates, and propagating anti-tumor and anti-inflammatory factors.
- Clostridia are prevalent flora in a healthy intestine. *Clostridium* spp. should be considered in the context of balance with other expected/beneficial flora. Absence of clostridia or over abundance relative to other expected/beneficial flora indicates bacterial imbalance. If *Clostridioides difficile* associated disease is expected, a GI Pathogens PCR test is recommended.
- 酵母は通常、皮膚、口腔および腸に少量存在することがあります。少量の酵母は正常であるかもしれませんが、多量に観察された酵母は異常と考えられる。



オーダー: 999999-9999



クライアント #: 999999

医師: Sample Doctor, MD

Doctors Data Inc

123 Main St.

St. Charles, IL 60174 USA

患者: Sample Patient

Id: 999999

年齢: 53 生年月日: 1972/01/01

性別: Female

検体作成

採取日

受領日

報告日

日付/時間

2025/05/19

2025/05/23

2025/05/30

その他のマーカー

結果

基準値

顕微鏡酵母

Moderate



不検出 - ほとんど陰性



オーダー: 999999-9999



クライアント #: 999999

医師: Sample Doctor, MD

Doctors Data Inc

123 Main St.

St. Charles, IL 60174 USA

患者: Sample Patient

Id: 999999

年齢: 53 生年月日: 1972/01/01

性別: Female

検体作成

採取日

受領日

報告日

日付/時間

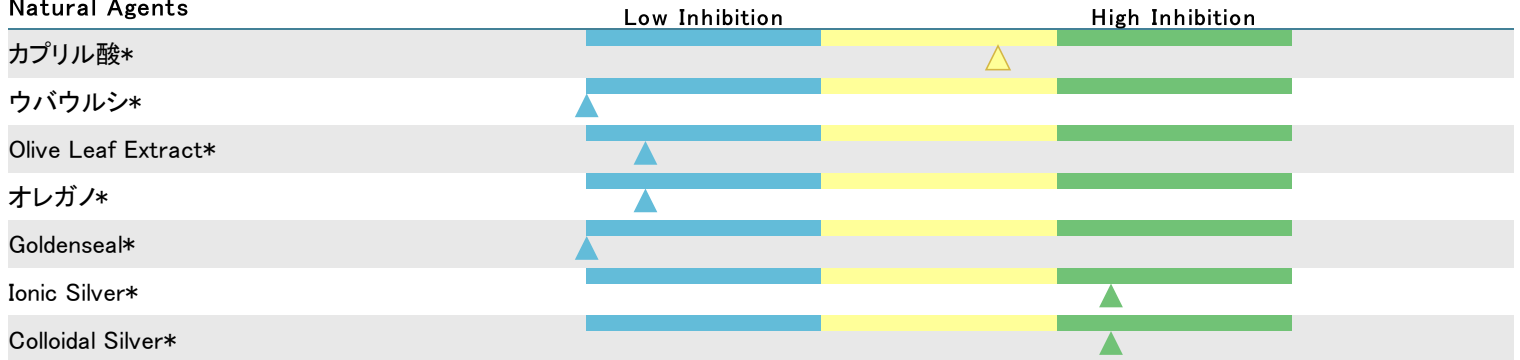
2025/05/19

2025/05/23

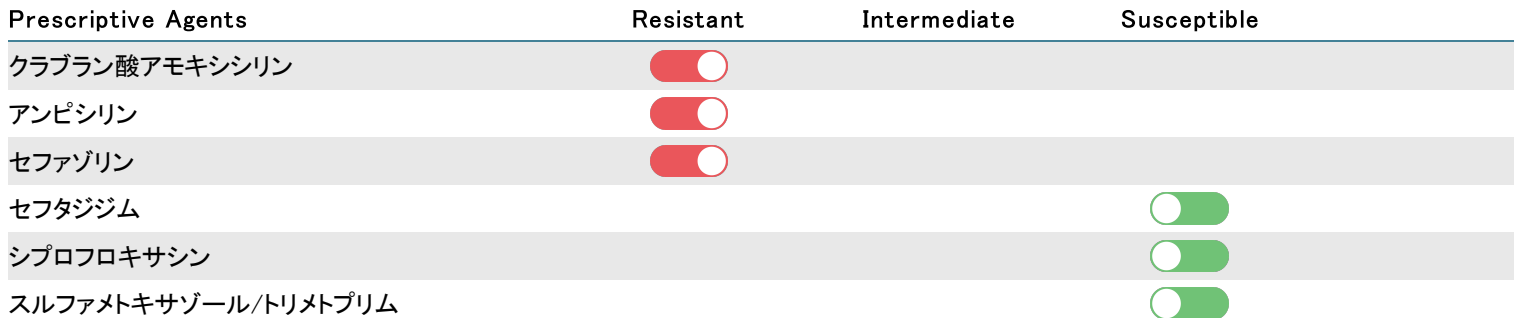
2025/05/30

Enterobacter cloacae複合体

Natural Agents



Prescriptive Agents



感受性情報:

- 天然抗菌剤は、微生物がこれらの薬剤に対するin vitro感受性を示す場合、患者の治療に有用である可能性があります。試験は、標準化された手法を用い、リストに記載された薬剤を含浸させた濾紙ディスクを用いて実施します。円板周囲の阻止域の直径に基づいて、各天然物質について相対感受性を報告します。5000以上の個々の観察に基づくデータを用いて、ゾーンの大きさを病原体の活性レベルと関連づけました。試験した天然物について相対感受性の尺度が定義されています
- 感受性の結果は、被験抗細菌薬の推奨用量を使用した場合、細菌による感染症が適切に治療される可能性を意味します。中間の結果試験抗細菌薬を使用した場合、感受性菌よりも奏効率が低い可能性が示唆されます。耐性の結果試験された抗細菌薬の通常用量レベルでは細菌が阻害されないことを意味します。

注意事項

*この検査は、CLIAの要件に沿った方法でDoctor's Data Laboratoriesが開発し、その性能特性を決定したものです。米国食品医薬品局(FDA)はこの検査を承認または認可していませんが、現在、臨床使用にはFDAの認可は必要ありません。この検査結果は、臨床診断や患者管理の決定のための唯一の手段として使用されることを意図したものではありません。



オーダー: 999999-9999



クライアント #: 999999

医師: Sample Doctor, MD

Doctors Data Inc

123 Main St.

St. Charles, IL 60174 USA

患者: Sample Patient

Id: 999999

年齢: 53 生年月日: 1972/01/01

性別: Female

検体作成

採取日

受領日

報告日

日付/時間

2025/05/19

2025/05/23

2025/05/30

微生物学

病原性/異生物フローラ

腸内フローラの健康なバランスのとれた状態では、有益な細菌が総マイクロフローラのかなりの割合を占めます。しかし、多くの個体では、有益な細菌叢の不均衡または欠乏、および非有益な(不均衡)または病原性微生物(発育不全)さえも過剰増殖します。これは、汚染された水または食物の摂取;有益な細菌に有毒な化学物質の毎日の暴露;抗生物質、経口避妊薬または他の薬物の使用;繊維摂取不良および高いストレスレベル

Aを含む多くの因子に起因し得ます。アミン、アンモニア、硫化水素、フェノール、二次胆汁酸などの生体異物によって多くの有毒物質が産生され、腸内膜の刷子縁に炎症や損傷を引き起こすことがあります。チェックしないままにしておく、腸の内層が長期的に損傷を受けると、漏出性腸症候群、アレルギー、自己免疫疾患(関節リウマチなど)、過敏性腸症候群、疲労、慢性頭痛、さまざまな食物に対する感受性などが生じます。また、病原菌は、食中毒の場合、腹痛、悪心、下痢、嘔吐、発熱などの急性症状を引き起こす可能性があります

細菌この患者の標本から培養された病原菌に対して、様々な処方薬および天然物に対する感受性が提供されています。これにより、適切な治療計画を立てるのに役立つ有用な情報が医師に提供されます。乳酸菌、ビフィズス菌、腸内菌の株を含むプロバイオティクスまたは食品(ヨーグルト、ケフィア、味噌、テンペ、タマリソース)の補充または消費は、健康なフローラレベルの回復に役立ちます。緑茶およびニンジン茶に含まれるポリフェノールは、有益な細菌数を増加させることがわかっています。低酸症は、特に小腸において、細菌の過剰増殖の素因となることもある。栄養性炎症薬は、消化管粘膜への刺激を回復させるのに役立ちます。これらには、クエルセチン、ビタミンC、クルクミン、γ-リノール酸、ω-3脂肪酸(EPA, DHA)、およびアロエベラが含まれます。亜鉛、ベータカロチン、パントテン酸、L-グルタミンなどの他の栄養素は、消化管粘膜の再生を支持します。総合的なプログラムは、生体不全状態が広範な消化管損傷を引き起こした患者に有用です。

Enterobacter cloacae

Enterobacter cloacae複雑なEnterobacteriaceae科の一部です。E. cloacae complexは、E. cloacae, E. asburiae, E. hormaechei, E. kobei, E. ludwigii, E. nimipressuralisという、類似した耐性パターンをもつ6つの近縁種のグループです。このグラム陰性菌は、3+以上のレベルで生育不全と考えられる。E. 糞排泄腔複雑な、小児の下痢に関連する日和見病原体と考えられています。溶血性尿毒症症候群の乳児の糞便から志賀毒素産生E. cloacaeが分離されました。しかし、E. cloacae complexは、尿路、気道、皮膚創などの腸管外感染症に関与することが最も多いです

広く

環境中に分布するEnterobacter種は、ヒトおよび動物の両方の糞便から一般的に分離されます。Enterobacter spp.の環境株は、冷蔵温度で食品中で増殖可能です

E. cloacae複雑な誘導性β-lactamasesを有することが知られています。分離株は、治療開始後、すべてのセファロスポリンに耐性となる可能性があります。アモキシシリン/クラバン酸、アンピシリン/スルバクタム、ピペラシリン/タゾバクタムなどのβ-lactam-inhibitor薬は避けます。症状が遷延する場合は、全身性感染症に抗生物質が適応となることがあります。治療については抗菌薬感受性を参照

不均衡菌叢

不均衡菌叢は宿主の消化管に常在し、宿主に傷害も利益も与えない細菌です。検出されたレベルでは病原性である可能性が低い場合、低レベルで発見された場合には、不均衡なカテゴリーの下にある種の異生物性細菌が出現することがあります。不均衡な細菌叢が出現すると、1つ以上の有益な細菌の不十分なレベルおよび/または基準範囲のアルカリ末端(5.7~7.0)に向かう糞便pHがより多く検出されることは珍しくありません。また、アルカリ条件下で有益な大腸菌の変異に続発して、有益な大腸菌とアルカリ性pHの欠損を同時に伴う溶血性または粘性性の大腸菌を発見することも珍しくない(DDI観察)。細菌がdysbiotic categoryの下に出現しない限り、抗菌薬による治療は不要です

有益なフローラ

この検体では、期待されるまたは有益な細菌の1つ以上が低いです。通常豊富に存在する細菌には、乳酸桿菌属、ビフィズス菌属、クロストリジウム属、バクテロイデス-フラジリス群、腸球菌属、および大腸菌があります。有益な細菌叢は、腸内で多くの健康保護効果を有し、その結果として、生物体全体の健康にとって極めて重要です。有益な細菌叢の役割のいくつかは、タンパク質および炭水化物の消化、ビタミンおよび必須脂肪酸の製造、免疫系細胞数の増加、細菌毒素の分解およびフラボノイドの抗腫瘍および炎症因子への変換を含みます。乳酸桿菌、ビフィズス菌、クロストリジウム、腸球菌は、酢酸、プロピオン酸、酪酸、吉草酸を含む他の酸と同様に乳酸を分泌します。この分泌はその後の腸内pHの低下を引き起こし、これは細菌および酵母を含む微生物病原体の腸内増殖を防ぐのに極めて重要です。多くの消化管病原体はアルカリ性環境で繁殖します。乳酸桿菌はまた、抗真菌薬および抗菌薬であるラクトシジン、乳酸桿菌、アシドリン、過酸化水素を分泌します。このように、消化管の有益な細菌叢は、微生物病原体の抑制、抗生物質関連下痢の予防と治療、旅行者の下痢の予防、免疫機能の増強、酵母の増殖の抑制に有用であることがわかっています

腸内フローラの健康的なバランスのとれた状態で、有益な細菌が全体のマイクロフローラのかなりの割合を占めています。有益な細菌の各々の健康なレベルは、2+、3+または4+(0~4スケール)のいずれかによって示されます。しかし、一部の患者では有益な細菌叢の不均衡または欠乏、および非有益な(不均衡)または病原性微生物(発育不全)さえも過剰増殖がみられる。これは、汚染された水または食物の摂取;有益な細菌に有毒な化学物質の毎日の暴露;抗生物質、経口避妊薬または他の薬物の使用;繊維摂取不良および高いストレスレベル

オーダー: 999999-9999



クライアント #: 999999

医師: Sample Doctor, MD

Doctors Data Inc

123 Main St.

St. Charles, IL 60174 USA

患者: Sample Patient

Id: 999999

年齢: 53 生年月日: 1972/01/01

性別: Female

検体作成

日付/時間

採取日

2025/05/19

受領日

2025/05/23

報告日

2025/05/30

微生物学 *continued..*

を含む多くの因子に起因し得ます。アミン、アンモニア、硫化水素、フェノール、二次胆汁酸などの生体異物によって多くの有毒物質が産生され、腸内膜の刷子縁に炎症や損傷を引き起こすことがあります。チェックせずに放置すると、腸管内膜が長期的に損傷を受けると、腸管漏出症候群、疲労、慢性頭痛、さまざまな食物に対する感受性が生じることがあります。また、病原菌は食中毒の場合、腹痛、悪心、下痢、嘔吐、発熱などの急性症状を引き起こすことがあります

抗菌薬 この患者の検体から培養された病原微生物に対して、様々な処方薬および天然薬に対する抗真菌薬感受性試験を提供することができます。この検査は、適切な治療計画を立てるのに役立つ有用な情報を開業医に提供することを意図しています。生物学的異常状態が広範な消化管損傷を引き起こした個体では、包括的なプログラムが役立つことがあります

注: 全ての属または種が、その特異的な増殖要件のために、実験室で感受性を試験できるわけではありません。さらに、疾病管理予防センターは、食中毒に関連する生物などの特定の生物を検査しないことを推奨しています。開業医に具体的な質問がある場合は、顧客サービスにお問い合わせください。

Clostridium spp

Clostridialはヒトの腸内に生息することが期待されています。腸内のほとんどのクロストリジウムは毒性を持ちませんが、ある種は疾患と関連しています。Clostridium perfringens は食中毒の主要原因であり、抗生物質関連下痢の原因の1つでもある。Clostridioides difficileは抗生物質関連下痢および偽膜性大腸炎の原因菌です。自閉症スペクトラム障害患者に多量に流行することが報告されている他の種としては、Clostridium histolyticum群、Clostridium cluster I、Clostridium bolteae、Clostridium tetaniがあります。

培養酵母

少量の酵母(+1)が健康な消化管に存在することがあります。しかし、酵母のレベルが高い(+1以上)場合は、生体異形成であると考えられる。酵母培養陽性および処方薬および天然薬に対する感受性は、酵母の過剰増殖に対する潜在的な治療介入に関する決定の指針となる可能性があります。酵母の存在を調べる場合、培養検査と顕微鏡検査との間に格差が存在する可能性があります。酵母はコロニー状に増殖し、典型的には便全体に均一に分散していません。さらに、一部の酵母は腸を通過して生存できず、培養が不可能になることもある。これは、顕微鏡で観察されたかなりの量の酵母にもかかわらず、培養で同定された酵母のレベルが検出不能または低レベルになる可能性があります。したがって、顕微鏡検査と培養の両方が、異常に高いレベルの酵母が存在するかどうかを決定するのに役立ちます。